

社会

先般、ワイゼンが否かをめぐってのいわゆる「四畳半襖の下引」の裁判は、作者の野坂昭如氏と出版社のおもしろ半分社に有罪判決となりその被控は意外と大きくボルノ論争となつて言論人、作家仲間と相識している日本ペンクラブを揺る動かしている。

自由は、國家秩序のために譲つてもよい自由とがある——石川達三氏（ペンクラブ会長）の自由論が火タネとなり野坂昭如、生島治郎氏ら若手會員が石川会長に論争をいこんだのである。論争はだんだんエスカレートしやめろ、やめなひの騒動を引起してゐる。

ボルノ解禁・言論の自由」を主張するバングラフの若手と「自由の名のもとにボルノ解禁は反対」を唱える老会長の争いは、老いばれ、若憎メといった老・青の感情のぶつかり合いの様相で頭脳明セキであるお歴々の論争にしていざなが出来が悪い。

人様のお騒々動に他人が口出しする筋合いではないので大いにやってみらうて結構だが、問題の争点である「自由」の解釈について

る。即ち、核大國本位で進んでいる点である。核兵器保有中で愛国集團は米、ソ、英、中、の五國國威だけで、その他の國々、海をこえて賣つていけないと決めている。

米文によれば「一層整っているように見えるが、日本が六年の間に、國、批准しなかつた原因は次の二點である。第一に、「ソの拡散」(核兵器が増加すること)は防止するが「タタの拡散」(米

友愛政経研究

核兵器不拡散會

如何に爲すか、五大國の核兵器増強と
つとに、原力平和利用に關
する條の問題である。先に上げ
る條は、核兵器の保有に關し、
保障措置協定について、現在、
核約國九ヶ國の半數を要す。
核約國九ヶ國の半數を要す。
定むる知知しない。この協定を

[illegible]

四畳半裁判とポルノ論争

は一言三言申し述べたい。まず第一点、四疊半裁判の判決の要旨は、性についてはともかくも野坂氏らの一部の作家達は、「言論の自由の名のもとに」性をもて遊びオチ

も価値あると信じ主張した。ならば、地下出版の手段をとって抵抗すればよいであろう。日本の警察当局は、かつての特高警察とこの全体主義の国家警察とはがってスピード違反の取り締りなどで多忙であり地下出版のボルの小説の検挙までには手がまわ

「何も結の解素であるまいし、ボクも結の解素のとメダク必要はない、また取り締り当局も野猫のよう所かまわず総す訳でもあるまいし、さほど公序良俗に反するものでもないと思うのだが……」。

中央常任委

ヨクリ過ぎてはいないだろうが。
そして第二点は、「性」のもて遊び
オチ「ヨクリ過は、國民の「性」に
對する考えを困託させるものであ
りそれがやがては言論の自由を抑
束してしまふという危險な方向へ
と向かへることにならないだろう
か。もて遊びオチ「ヨクリ過」とは
例へば四疊半問題に限つて云へば
「おもしろ半分社」といつた出版
社の名前からして「おもしろ半分

員 黒秋 道義

ないであらうと思ふからでなく、事實の道の代表的なものがある。ミラージュ劇場（ストリッパのほとんどは一米ずつとわねぬ）を出しシラを被譯して下れるつあるが、これらに對しお上のおかめをかけた話是一条さゆりさ以外はおまり耳にしたこととはなからである。

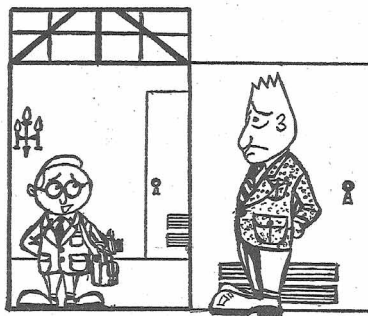
ついで日本の警察当局はいたてて竟の精神に満ちているので

とは云つても性の商品化といふ「性」秩序が乱れていることである。人間が「性」の快楽だけを求めるようになったら、それ退廃の道を進むことになる。いまだ飽きることもなくノボルと続くものではないかと思うが、みんなが真険になつて考える間であると思つた。

旅行記

西
村
夫

第五回
福福はハチの渾りの生れ
因長は、シュトルマンを抱
きながら慎重にたいた。ツツの
音にも、ついても、
「もつとも、因長は身長、メー
トル八八、体重九、キロにう
ろさな巨人の、本人はひ
かつかつもてゐる、スロ
ー・キーン・カマの面像も
男らしく、ゆたかりおあが
ったぞ、精神的とひあつた
と言つたが、説明してはし
ない。」
「FAN」



下酒食

カシノ奥地をきつめてうづムツ
は、突然天の雷のまじひいてい
た。ソコにおきてゐて、気の小さ
い蒲田の男にもつた。そして、
すなわちの方からけ出をしたが
は、まあ待てよ、「オレ！ダンチ
ン」ウデタルと自分言ひいきか
せてゐるだけふカシノ腹をつく
つて、おもむき下りまけた。
因長はそのご感激しかうやう
やし、彼を見あてている小太男
を見た。

それ續本という福壽屋はハマ
通の生まれて四國の一人であつ
た。「お前か」

と因長はフツに抱きつけた内
うな声を出した。
「害にいらへんかい」
と彼の泣くうなで、因長もそを
うに言へた。

因長はこの小男がスト
ックホルム到着以来と同年であ
るころに、やつと、気がついた
が、自分の室に入りの理屈によ
う必要はない。入りたいのが、
巨体が口をさしてゐるので、こ
れが入り口の二丁なのだ。こ
う因長は、彼の樂入が可能があ
つていた細さ、袖輪が迷ひこん
だど自転車で捨てに行ったホ
人物である。同年男を泳ぎぬ
うには、何でもない。(m)(v)

對外經濟協力大系

〔本卷10卷／別卷2卷〕
鹿島平和研究所編

- 新たな構想のもとに、
全思想体系を集大成した決定版
- クーデンホーフ・カレルギー全集**
- 全9巻完結！** A5判各1,000頁
- 1 クーデンホーフ人・思想・行動
鹿島守の脱獄闘争、
パン・ヨーロッパ
 - 2 ヨーロッパ国民、ヨーロッパの統合、ヨーロッパの
女性の使命他 鹿島守の助・深津来一 訳
 - 3 実践的理想主義・倫理と超倫理・人生全
戒律 鹿島守の助訳
 - 4 物質主義からの離脱
技術による革命 鹿島守の助訳
 - 5 ヨロッパの三つの魂／悲慘なヨーロッパ
ツパ／ゼントルマン 鹿島守の助訳
 - 6 自由と人生／友愛の世界主義 戦争をへ
平和へ 鳩山一郎 鹿島守の助・深津来一 訳
 - 7 回想録 鹿島守の助訳
 - 8 第一鹿島平和賞受賞記録
美の国 鹿島平和研究所編・鹿島守の助訳
 - 9 世界の勢力としてのヨーロッパ・他
鹿島守の助訳

1	経済協力の理念と発展	一、九〇〇田
2	低開発地域の諸問題	一、六〇〇田
3	経済協力の形態	一、六〇〇田
4	多数国間の経済協力	二、四〇〇田
5	日本の経済協力	一、六〇〇田
6	主要先進諸国の経済協力	二、五〇〇田
7	アジアに対する経済協力	二、三〇〇田
8	アジアにおける地域協力	一、六〇〇田
9	中近東・アフリカに対する経済協力	一、六〇〇田
10	中南米に対する経済協力	一、六〇〇田
別巻1	重要資料集	一、八〇〇田
別巻2	経済協力実務便覧・関係法令基本集	二、三〇〇田
書集		

明日を築く技術

鹿島出版会

東京都港区
赤坂6-5-13



いま、目覚めるたしかなうるおい

いつしかわたしは まだ見たこともない新しい世界に とまどいを感じていた。白くまぶしい 神々の歴史をひもとくように長い沈黙が破れた。わたしは 私を忘れてしまっている。いま はじめて目覚める たしかならぬぞい メナード・エンタウ



Ental
メナードエンタル

●メナードエンタルグループ<9点>

